

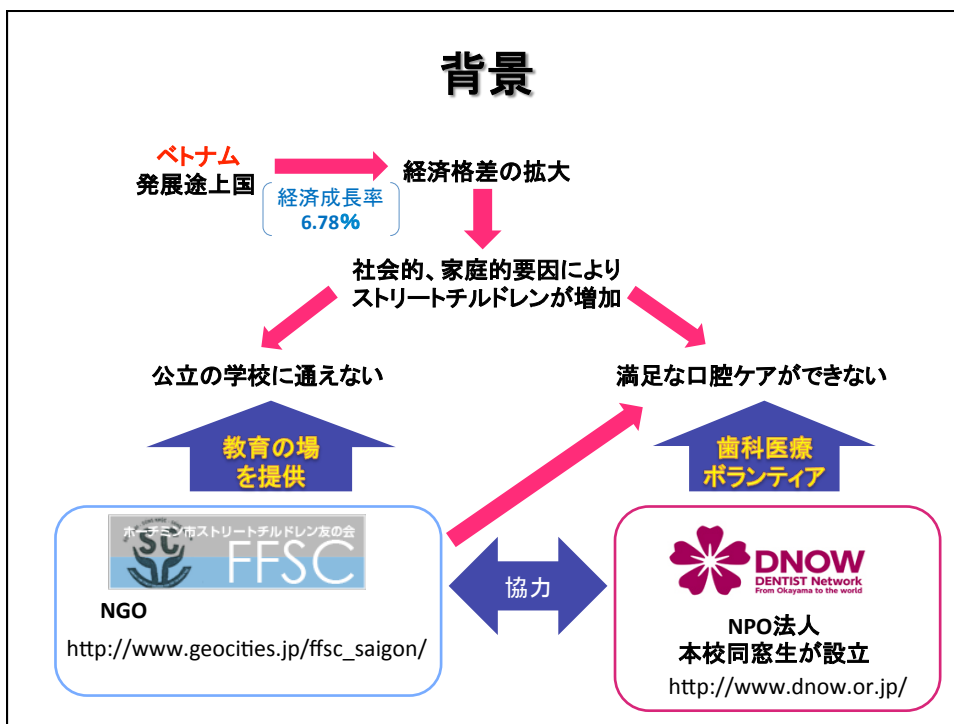


同窓生のNPO法人による ベトナムでの歯科医療支援の効果

Dentist Network from Okayama to
the World (DNow)
in Ho Chi Minh City



歯周病態学分野
07421025 鈴木里紗



目的

今後の効果的な国際歯科医療貢献につなげるために、
DNOWの活動を通して、

- ・ ベトナムの小児の口腔状態の現状
- ・ DNOWの歯科医療ボランティアの意義



について検討すること

材料および方法

1) 対象：

DNOWが2009年、2010年、2011年2月および2011年9月に実施した歯科検診の参加者のうち、5歳以上15歳未満を対象とした。

2) 対象者におけるDMF指数：

対象者におけるDMF指数の経年的推移を調査した。また、厚生労働省が発表した『2005年歯科疾患実態調査』と比較した。

3) 検診参加回数による齲蝕罹患状況の経年的変化：

対象者を検診参加回数ごとにグループ分けし、各グループの齲蝕罹患状況を経年的に比較した。

4) ベトナムの小児における食生活と口腔状態の関係：

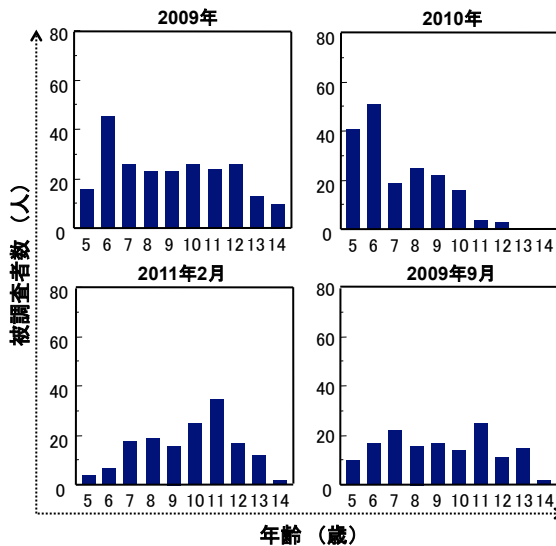
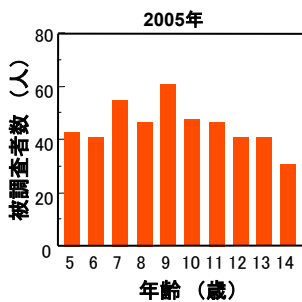
2011年2月に実施した「食生活に関するアンケート」をもとに、ベトナムの小児における食生活と口腔状態の関係を調べた。

【歯科検診表】

対象者の年齢別分布

日本

ベトナム

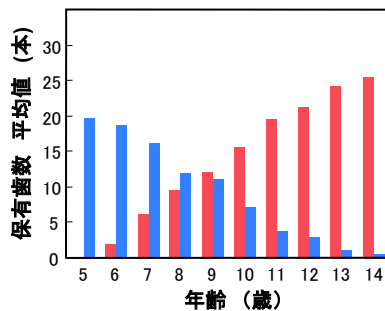
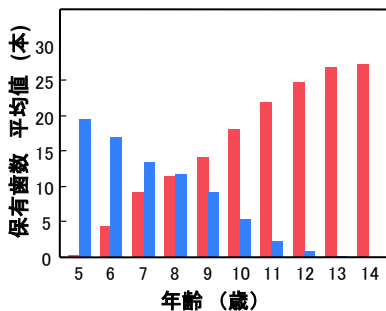


ベトナムと日本の小児における年齢別保有歯数の比較

日本 [2005年]

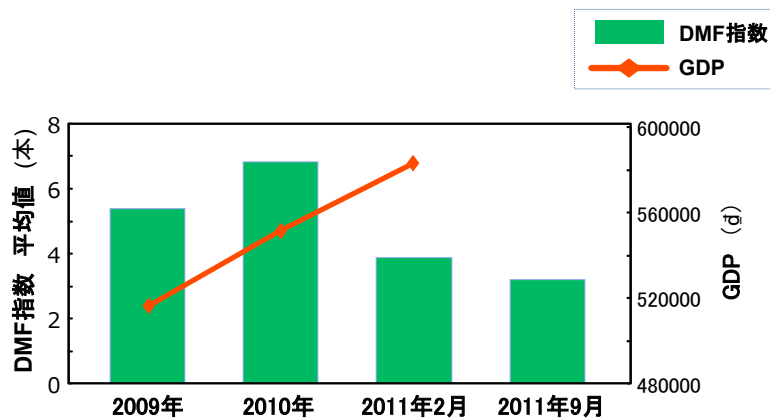
ベトナム [2009年]

■ 永久歯
■ 乳歯



日本とベトナムにおける年齢別保有歯数は、同様の分布である。

ベトナムの小児におけるDMF指数の経年的推移

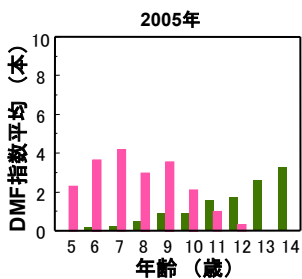


DMF指数は、2010年に上昇するものの、経済成長に伴ってか、経年的に減少傾向にある。

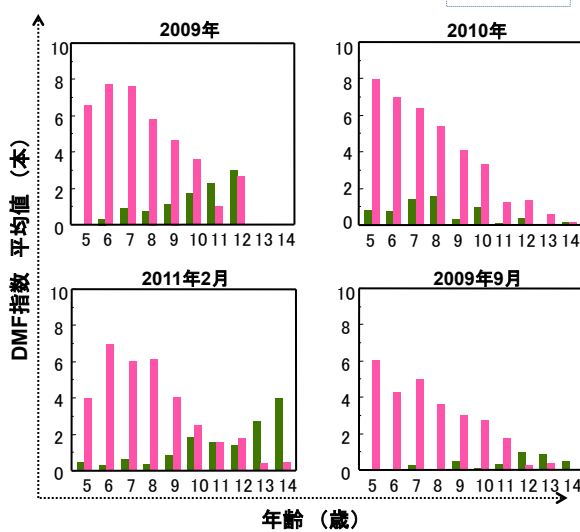
日本とベトナムの小児におけるDMF指数の比較

日本

ベトナム

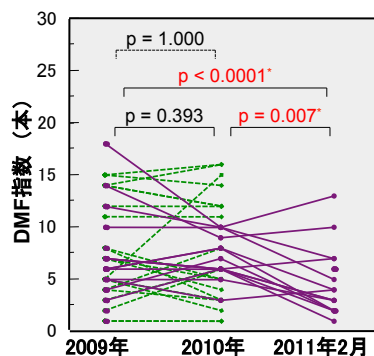


ベトナムは、日本に比べて乳歯のDMF指数が高い。

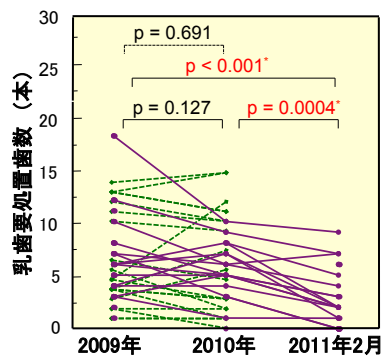


検診参加回数による齲蝕罹患状況の経年的変化

DMF指数



乳歯要処置歯数



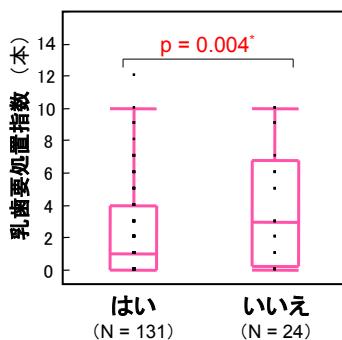
3回検診参加者において、
3回目のDMF指数と乳歯要処置歯数が減少傾向にあった。

--- 2回検診者: N = 20
--- 3回検診者: N = 14

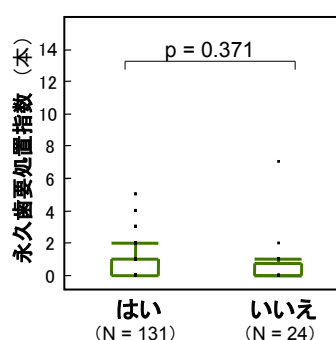
ベトナムの小児における 食事の規則性と要処置歯数の関係

【質問】 3回/日, 食事をしていますか

乳歯



永久歯



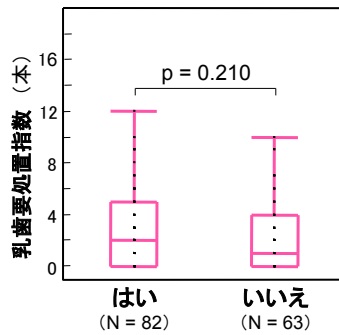
3回/日の食事を摂る子供(N=131)に比べて、摂らない子供(N=24)の方が、乳歯の要処置歯数が有意に多かった。

Student's t-test
* p < 0.05

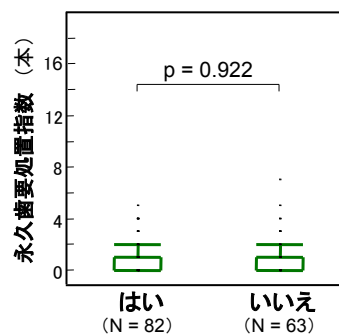
ベトナムの小児における 甘味物嗜好と要処置歯数の関係

【質問】 甘いものは好きですか

乳歯



永久歯



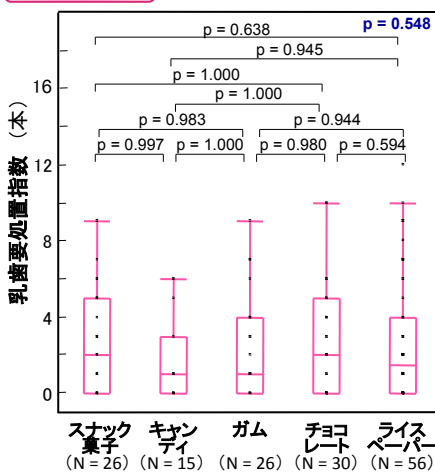
甘いものが好きな子に要処置数が多いわけではなかった。

Student's t-test
* p < 0.05

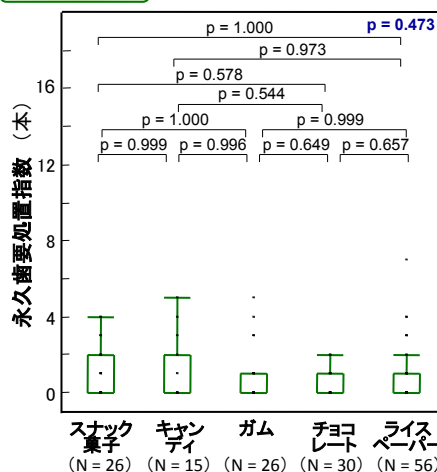
ベトナムの小児における 間食の種類と要処置歯数の関係

【質問】 おやつにどんな物をよくたべますか

乳歯



永久歯



よく食べる間食の種類と要処置数との関連はなかった。

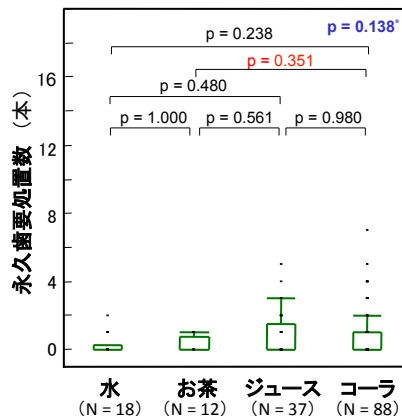
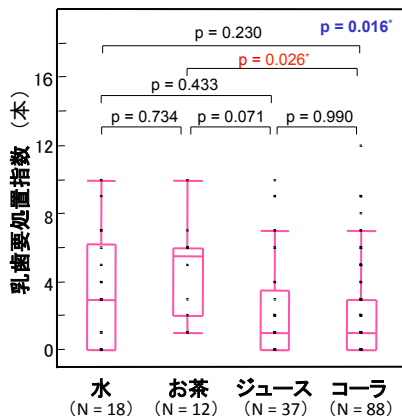
ANOVA, Tukey-Kramer HSD検定
* p < 0.05

ベトナムの小児における 飲料の種類と要処置歯数の関係

【質問】どんな種類の飲み物をよく飲みますか

乳歯

永久歯



お茶をよく飲む子供の方が、コーラをよく飲む子供に比べて、乳歯要処置数が有意に多かった。

ANOVA, Tukey-Kramer HSD検定
* $p < 0.05$

考察

- ベトナム小児のDMF指数は、2010年のみ前年に比べ増加している。
 - 平均年齢が他の年と比べて低かったためと考えられる。
- 食事をしていない子供に要処置歯数が多かった。
 - 食事をする習慣のある子供に比べて生活習慣が乱れていることが推測される。
 - また、別の因子として、食後のブラッシング習慣の現状に関するアンケート調査を行う必要があると考えられる。
- お茶を飲む子供に要処置歯数が多かった。
 - ベトナムでは糖分を含むお茶を飲む習慣があることが考えられる。
- ジュースやコーラをよく飲む子供に要処置歯数が少なかった。
 - お茶に比べて飲む頻度や量が少なかったためと考えられる。
 - したがって、今後のアンケート調査でお茶の内容や飲料水の摂取量の調査を行う必要があると考えられる。

結論

1. ベトナムの小児における口腔状態は、
 - ・ 経済成長に伴って改善傾向にあるものの、
 - ・ 日本に比べて齲蝕罹患率が高い。
2. 歯科治療ボランティアの実施が、ベトナムの子供たちの口腔状態改善に寄与している可能性が示唆された。



DNOWによる口腔衛生管理に関する介入によって、より一層の改善が期待できる。